

案件概要表

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	カンボジア
2. 事業名	女性のヘルスプロモーションを通じた包括的子宮頸がんサービスの質の改善プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	カンボジアにおいて子宮頸がんは乳がんに続き女性の罹患者が多い(出典:WHO 2020)。2030年までの子宮頸がん撲滅に向けた世界的な流れの中、予防策となる子宮頸がん検診制度の整備が急務となっている。カンボジア保健省は、2023年頃に子宮頸がんワクチン接種を他の予防接種プログラムに組み込み全国展開する計画を有している。一方、カンボジア産婦人科学会(SCGO)と日本産科婦人科学会(JSOG)はJICA草の根技術協力事業(2015年~2018年)を通じ、工場労働者を対象に健康教育・検診・早期治療のパッケージを確立させており、このパッケージの拡大展開をカンボジア保健省から求められている。そのためには、女性の健康と子宮頸がんに関する健康教育啓発活動と、検診を実施する医療従事者の対応能力向上および指導者育成が鍵となる。本事業では、これに加え、対象者を小学校教員等関係者に広げ、より幅広い層へアプローチする計画である。
4. プロジェクト目標	女性のヘルスプロモーションを通じた包括的子宮頸がんサービスの質が改善する
5. 対象地域及び管轄する領事館	プノンペン市 在カンボジア日本大使館(プノンペン市)
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	1)直接受益者:プノンペン市の小学校教員2,100人(主に20代から50代女性1500人、男性600人程度) 2)間接受益者:教育省と学校関係者(約20名)、SCGO学会員(約200人)、対象病院:プノンペンの3つの国立病院(クメールソビエト友好病院、カルメット病院、国立母子保健センター)
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<アウトプット> 1:ターゲットグループ(小学校教員・小学校管理者・教育省関係者)が女性の健康と子宮頸がんに関する理解を深めることのできる効果的な健康教育が提供される 2:子宮頸がん検診への対応能力が拡大する 3:健康教育(成果1)と検診(成果2)のスケールアップにむけての環境が整備される
8. 実施期間	(西暦)2019年11月~2024年7月(4年8ヵ月)
9. 事業費概算額	69,529千円
10. 事業の実施体制	1)日本側:公益社団法人日本産科婦人科学会(JSOG) 2)現地側:カンボジア産婦人科学会(SCGO) SCGOが健康教育啓発活動・がん検診の実施主体となり、JSOGは検診結果分析など検診制度確立に向けたマネジメント面の技術協力を行う。事業全体の運営管理は両学会が共同で行う。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	公益社団法人 日本産科婦人科学会
2. 活動内容	国内では産科婦人科学の進歩発展とともに産婦人科医療を通じた社会貢献活動を実施、国際活動では低資源国での人材育成、アジアオセアニア産科婦人科学会連合設立や機関誌編集を継続している。2015年から2018年にSCGOと前述の草の根技術協力事業を実施した。